令和４年度

研　究　デ　ザ　イ　ン

亀山市立亀山中学校

１．　「亀山市教育大綱　基本方針－１」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱　基本方針－１

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員　研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

（１）すべての子どもの学ぶ意欲を高め，社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
（２）教師の授業力向上を追求するとともに，系統的な指導をすすめる。
（３）人権を尊重し，なかまとともに，豊かな心と身体をはぐくみ，
自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
（４）地域の人材や活動を活用し，地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

２．学校教育目標

「豊かな人間性とたくましい行動力を持つ生徒を育成する」

～人とかかわる喜びを持ち、絆をつくる生徒へ～

３．研究主題

令和４年度

主体的・協働的な生徒の育成

～意欲の高まる指導方法の工夫を通して～

４．（１）研究主題設定の理由

①　社会的な背景から

現代社会において，ICT 機器の発展による情報化や技術革新によるグローバル化がますます進み，社会は著しい発展を遂げている。今の子どもたちが社会で活躍するときには，より変化の激しい時代であることが推察される。中学校学習指導要領解説編（2016）では，「子供たちが，学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し，これからの時代に求められる資質・能力を身に付け，生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには，これまでの学校教育の蓄積を生かし，学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが必要であり，我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善）を推進することが求められる。」と示された。

ここから，「何を教えるか」という知識の質や量の改善に加え，「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視すること，課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業づくりが求められていることが分かる。

本年度，改定された亀山市教育ビジョンにおける基本施策①「夢や可能性に挑むための『確かな学力・豊かな心・健やかな身体』の育成」の基本的な考えには「本市では，日々の授業や学校生活の様々な場面において直面する課題を解決すること，探究的な学習や体験活動等を通じて，夢や可能性に挑むために必要な『知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』を身につけ，『学びに向かう力・人間性等』を高め，他者と協働しながら主体的に探究していく学びの充実を図ります」と示された。さらに校区研究主題は「自他を認め，ともに学び合う児童・生徒の育成」であり，主題設定の理由の中で『学びの土台となる「なかまづくり」や個に応じた学びと協働的な学びの充実が重要である』と示されている。これらの方針からも「主体的」や「協働的」といったキーワードの重要性が読み取れる。

②　本校の現状から

まず本校の学校教育目標は，「豊かな人間性とたくましい行動力を持つ生徒を育成する」であり，めざす生徒像として「主体的・協働的な活動を通してきずなをつくる生徒」としている。このような生徒を育成するための具体的方策を，校内研修を通して明らかにしていくことが必要である。

また， 本校では、平成 30 年度より4年間，「だれもが“わかる”“できる”を実感できる授業づくり」を主題として研修を実施してきた（図1）。その結果，ユニバーサルデザインの視点に基づいた教室環境や授業づくり，授業での学びあいを通した仲間との「絆づくり」の実現に教職員が一丸となって取り組むことができた。

そのことにより，全校生徒に実施した魅力ある学校づくり事業の質問紙調査からは質問項目「学校が楽しい」に約 7 割以上の生徒が「当てはまる」と回答した（図 2）。

一方で，「授業に主体的（一生懸命）に取り組んでいる」に対して「当てはまる」と回答した生徒は 60%前後に留まっている（図 3）。本年度からは昨年度まで実践してきた授業における「絆づくり」を大切にしながらも，特に主体的に学習に取り組む生徒を教職員一丸となって育んでいきたい。そこで，本年度の研修テーマを「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成」とした。

研修期間	研修主題	副主題
2018 年度	だれもが“わかる”“できる”を実感できる授業づくり	ユニバーサルデザインを取り入れた授業を目指して
2019 年度		主体的・対話的で深い学びの実現
2020 年度		授業での絆づくり・学びあいの実現
2021 年度		授業での絆づくり・学びあいを通して確かな学力の育成

図 1．亀山中学校における過去4年間の研修主題の変遷

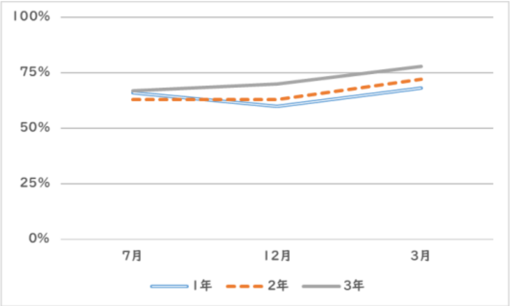

図 2. R3年度における質問項目「学校が楽しい」に対して「当てはまる」と回答した生徒数の変容

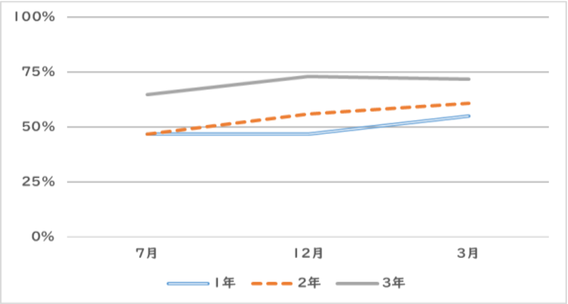

図 3.R3年度における質問項目「授業に主体的（一生懸命）に取り組んでいる」に対して「当てはまる」と回答した生徒数の変容

4．（2）副主題設定の理由

本校では主体的･協働的な生徒を育成するための原点は『意欲』だと考えている。生徒が課題を自分事としてとらえ，自ら取り組み始めるためには，「この課題はおもしろそうだな」と感じたり，「この課題であれば自分にもできそうだな」と考えたりすることが必要なためである。令和4年度亀山市研修基本方針においても「すべての子どもの学ぶ意欲を高め，社会で生きてはたらく『確かな学力』を育てる教育活動をすすめる」とある。ここから，亀山市としても「意欲」は学習において重要な位置付けであることが読み取れる。そこで，副主題を「意欲の高まる指導方法の工夫を通して」とし，教科に問わず，全職員が一丸となり，一人でも多くの生徒が学ぶ「意欲」をもって，学習できるように研修を進めていく。

5．研究主題について

本校では三か年計画にて研修主題の実現を目指していく。その初年度に当たる本年度は上述したように主体性の原点である「意欲」の高まりに視点を置き研究を進めていきたい。ただし，「意欲」といっても様々な解釈がある。そこで本校では，以下のように定義することとした。

学ぶ意欲とは 「学ぶこと自体がおもしろい」，「なぜこうなるのか知りたい」などの『学びたい』という気持ちや，「少しでも次のテストで高い点数を取りたい」などの『自身の設定した目標を達成するために粘り強く学ぼう』という気持ちをもち，目標に授業に積極的（自ら進んで）に学習する姿

本年度の研修の成果を図るために以下の質問項目を作成し，年間を通して質問紙調査を実施する。

- 授業（学ぶこと）は楽しい
- 自分の力で課題を解決できると嬉しい。
- 授業で学んだことをもっと学びたいと思ったことがある。
- 友達と協力して学ぶことは楽しい。
- 授業では友達と話すことで，より学ぶことができる。
- 授業に主体的（一生懸命）に取り組んでいる。

6．研究領域

授業（全教科）

7．具体的な３つの取組

① 授業づくりについて

- ◆ 年間を通して授業の相互見学週間と２学期に研究授業を実施する。
- ◆ 教科部会にて，「学ぶ意欲の高まる」手立てを学期ごとに考える場を設定する。
- ◆ 年間を通して，生徒用質問紙調査を実施することで生徒の変容を捉える。また，質問紙調査結果をもとに随時，意欲の高まる手立てを見直し改善を図る。

② 生徒指導・対応について

- ◆ 生徒指導に関する理論や考え方を学び合うために生徒指導部会と連携し，年間２回の事例検討会を実施する。

③ 教職員集団について

- ◆ OJT を年間通して計画的に実施し，教職員が互いに学び合うシステムの構築を図る。

８．研究構想図

令和4年度教育研究構想図

学校教育目標

豊かな人間性とたくましい行動力を持つ生徒を育成する
～人とかかわる喜びを持ち、きずなをつくる生徒へ～

目指す生徒像

◆ 自ら挨拶・掃除・学習をする生徒
◆ 向上心を持ち互いに学びあい認めあう生徒
◆ 「人」「物」「命」を大切にする生徒
◆ 主体的・協働的な活動を通してきずなをつくる生徒

研究主題

主体的・協働的に学ぶ生徒の育成
～意欲の高まる指導方法の工夫を通して～

研究内容

＜授業づくり＞
主体的・協働的に学ぶことができる指導方法について

＜生徒指導・対応＞
誰もが安心して学ぶことができる居場所づくり・きずなづくりについて

＜教職員集団＞
互いに授業力や学級経営力等を高めあう「同僚性」について

本校基本の教育活動

基礎学力の定着

○ 「亀中タイム」「学びたいむ」等の補充学習の充実
○ 亀中スタイル（めあて→まとめ→ふり返り）の確立
○ 全国学調，みえスタディチェック，ワークシート（3点セット）の活用

「居場所づくり」・「きずなづくり」

○ UDの視点を取り入れた教室環境整備
○ 魅力ある学校づくりの取組
○ 体育祭・文化祭等の行事を通した学級でのきずなづくり
○ 学級エンカウンターの充実

人権教育の推進

○ 各学年の実態に応じた人権教育
○ 「いのちの日」
○ 「視点生徒」を基盤とした学級づくりとその交流